

# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 2 No.3, 1995



第2回第四紀講習会風景

Vol.2 No.3

May 20, 1995

---

1995年大会第3報	---- 2
テフラ研究委員会から	---- 4
国際集会のお知らせ (IGBP-PAGES, ICQMR)	---- 6
研究集会報告 (第1回・第2回講習会報告, 他)	---- 8
第四紀研連から (第四紀関連科研費リスト)	----10
住所変更届けについて	----16

---

## 日本第四紀学会 1995年大会（総会・研究発表会） [第3報]

1995年度日本第四紀学会大会第3報をお届けします。一般研究発表・巡検は申し込み期限を厳守の上、至急お申し込み下さい。

### 1. 日 程

- 1995年8月25日（金） 一般研究発表  
8月26日（土） 一般研究発表・総会 [終了後：懇親会]  
8月27日（日） シンポジウム  
8月28日（月）・29日（火） 巡 検

### 2. 会 場

新潟大学教養校舎

大会準備委員長：青木 滋（新潟大学積雪地域災害研究センター）

### 3. シンポジウム

テーマ：「平野の自然と人類史－越後平野を例として－」

世話人：小林巖雄（新潟大学）小野昭（都立大）立石雅昭（新潟大）柴崎達雄（新潟大）

日 時：8月27日（日）9時～17時

プログラム

#### (1) 平野の形成

小林巖雄（新潟大理）越後平野地下の第四系  
田中久夫・新潟古砂丘研究グループ：新潟砂丘の形成史

#### (2) 平野と人の関係史

小熊博史（長岡市立科学博）越後平野における旧石器～縄文時代の遺跡の立地とその変遷  
山本肇（新潟県庁）越後平野における弥生時代～中世の遺跡の立地とその変遷

#### (3) 平野の水害と河川改修

大熊孝（新潟大工）越後平野の治水と河川開発史  
五十嵐太郎（新潟大農）亀田郷一水への挑戦

#### (4) 平野の地下資源と地盤

百武松児：新潟市周辺の地盤沈下の経緯

#### (5) 平野の将来

青木滋（新潟大積雪地域災害研究センター）平野の自然・生活環境

\*以上の方々をメインとし、個々のテーマについてコメンテーターを配置します。

### 4. 巡 検

テーマ：「新潟の古自然環境」

案内者：鈴木郁夫（新潟大教育）・長谷川美行（新潟大理）・高野武男（新潟大理講師）

地形図：20万分の1新潟，長岡，高田，富山（巡検地域全体）

2万5千分の1長岡，栃尾，片貝，塚野山，小千谷，新井，梶屋敷，越後大野，糸魚川，小滝，湯町

日程：8月28日（月）～29日（火）1泊2日（バス使用）

28日 JR新潟駅前発→長岡科学博物館→信濃川流域の河成段丘面の変形（地形と砂礫層），  
（悠久山・山本山・小栗田原・越路原）→不動沢（魚沼層群向斜構造）→小波長の摺曲構  
造→馬高遺跡→糸魚川（宿泊）

29日 宿舎発→フォッサマグナミュージアム→長者ヶ原遺跡→板倉町猿供養寺（地すべり博物館）  
→湯町砂丘（古砂丘砂層）→JR新潟駅前

集合：8月28日（月）8時15分 <場所> JR新潟駅前

宿泊場所：糸魚川市ホテル糸魚川（予定）

解散：8月29日（火）JR新潟駅前16時30分

費用：概算17,000円（宿泊費＋バス費用十昼食代）

募集定員：45名

申込方法：必要事項（氏名・所属・性別・連絡先住所と電話、FAX、あればE-mail・すでに定員オーバーの場合のキャンセル待ちの希望の有無）を記入した申込書（適宜作成ください）と、予約金5,000円（郵便為替）と一緒に、下記準備委員会まで期限厳守の上お申し込みください。申込期限は6月30日です。なお、定員は45名ですが、受付は先着順となります。申込者が15名に達しない場合は中止となりますので、ご了承ください。キャンセルの扱いは次の通りです。7月末日までの取り消しは全額払い戻します。8月10日までの取り消しは2,000円返却します。それ以降のキャンセルは予約金を返却しません。

## 5. 懇親会

日時：8月26日（土）午後6時～8時

会場：新潟大学生協食堂

会費：5,000円（一般）、4,000円（学生・大学院生）

事前申し込み制とします。懇親会参加の希望を葉書あるいはFAXで下記準備委員会宛、申し込んでください。

## 6. 夜間小集会

25日夜あるいは27日夜、小集会開催を希望される方は、集会名称、責任者名、連絡先、およびその参加人数、スライドあるいはOHPの希望の有無を7月末日までに下記準備委員会宛にお申し込みください。

## 7. 講演要旨集の申し込み

今大会では予約販売をいたしません。大会当日にお求め下さい。

## 8. 一般研究発表

一般研究発表・ポスターセッションでの発表を希望される方は、大会第2報（第四紀通信 Vol. 2, No. 2）に綴じ込んである「発表申し込み用紙」に必要事項を記入のうえ、第2報の「講演要旨の原稿の書き方」にしたがった原稿（2ページ）およびそのコピー1部を、5月31日（水）（必着）までに行事委員会までお送り下さい。原稿の受理をもつて受け付けといたします。

講演要旨集の原稿の送付先・一般研究発表の問い合わせ先

〒338浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部地理学教室内  
第四紀学会行事幹事 斉藤享治あて

（TEL 048・858・3195, FAX048・858・3690）

## 9. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は、大会第2報の「講演要旨の原稿の書き方」にしたがった原稿およびそのコピーに、「発表申し込み用紙」を添えて、5月31日（水）までに上記の行事委員会までお送り下さい。原稿枚数は2ページまたは4ページです。

## 10. 交通と宿泊

会場案内図は次報でお知らせします。新潟駅から会場の新潟大学西門まで新潟交通バスでおよそ40分です。JR電車（新潟駅から越後線新潟大学前駅あるいは内野駅まで約20分）もありますが、会場には両駅から徒歩15分です。

宿泊施設は大学周辺にはありません。駅前あるいは中心街の下記宿泊施設を各自申し込んでご利用ください。

施設名	所在地	電話番号（市外局番025）	費用
＜公共施設他＞			
KKR新潟ニュー越路	明石1-1-7	245-8271	自組7,364～他組8,270～（2食サ税金）
公立学校共済新潟宿泊所			
新潟会館	幸西3-3-1	247-9307	自組7,364～他組7,364～（2食サ税金）
新潟厚生年金会館	南万代1-8	243-3551	
メルバルク新潟	川岸町2-1-7	232-0101	

< 民間ホテル >

[ 新潟駅北 ]

ホテル新潟	万代5-11	245-3331	(S)9,500-12,500	(T)16,000-28,000
新潟東急イン	弁天1-2	243-0109	(S)7,900-8,400	(T)14,600-21,000
ホテルサンルート	新潟東大通1-11	246-6161	(S)6,800-7,500	(T)11,000-15,000
ホテルハイマート	弁天3-1	243-3161	(S)5,800-	(T)13,200-15,000
ホテルアルファードワン	花園1-7	246-8040	(S)5,100-6,000	(T)10,400-12,000
シングルイン新潟第1	花園1-6	241-3003	(S)4,980	(T)7,700
シングルイン新潟第2	東大通1-11	243-3980	(S)4,980	(T)7,700
スタック新潟	東大通2-7	246-3353	(S)4,200-5,000	(T)8,200-8,900
ホテルカワイ	弁天1-3	241-3391	(S)4,600-5,200	(T)8,200-8,900

[ 新潟駅南 (バス停にはやや不便) ]

ホテルアクアピア新潟	紫武山317	241-8000	(S)7,000~	(T)16,000~
新潟ワシントンホテル	笹口1-1	243-7311	(S)6,800-8,200	(T)13,800
ホテルターミナルイン	笹口1-14	245-1100	(S)5,200-5,500	(T)9,800~

[ 市街中心 ]

ホテルオークラ新潟	川端町6-53	224-6111	(S)8,500-10,500	(T)15,000~
新潟グラントホテル	下大川前3ノ町	228-6111	(S)7,200-9,000	(T)15,000~
ザ・ホテル金寿	東堀通8-1429	229-1695	(S)6,000-8,500	(T)13,000~

## 11. 大会準備委員会

〒950-21 新潟市五十嵐二の町8050 新潟大学理学部地質科学教室気付

日本第四紀学会1995年大会準備委員会

事務局長 小林巖雄 (TEL 025-262-6114)

立石雅昭 (TEL 025-262-6187)

(E-mail sedta9-4@sc.niigata-u.ac.jp)

FAX 025-262-6194 (教室共有)

### 日本列島第四紀露頭集編集委員会より

#### 日本列島第四紀露頭の記載保存一般公募について

##### 日本列島第四紀露頭集編集委員会・幹事会

第四紀通信第1巻4号19頁に掲載されておりますが、本学会は40周年(1996年)記念企画の一つとして日本列島第四紀露頭集を企画立案し、編集作業を始めております。情報量の多い露頭データ集を安価な有料特集号として刊行する予定です。消滅の激しい第四紀の重要な露頭の記載保存を進め、やがては、各地の会員、関係学協会と協力して、重要な露頭の具体的な保存を計りたいと考えます。現在、編集委員会の手元には、各編集委員を通じて集められた全国各地の数百点の露頭がリストアップされておりますが、実際にはさらに重要な露頭が登録漏れになっている可能性があります。各地の記載保存すべき露頭の一般公募を致しますので、よろしく御願いたします。

その1は、テフラ・層序を中心とし、各地の古環境、テクトニクスなどに関する代表的な露頭を加える予定です。露頭の位置、現存か消滅か、地層名、地質年代、主要鍵層名、スケッチ・柱状図の有無、その露頭を記載することの意義、主要文献などを、記載を御願いただける方の氏名・連絡先とともに、編集委員会宛お送り戴ければ幸いです。公表、未公表の別は問いません。なお、編集委員会において収録する露頭を決定させていただきます。

応募先: 日本大学文理学部応用地学教室 遠藤邦彦気付 日本列島第四紀露頭集編集委員会

〒156 世田谷区桜上水3-25-40 TEL 03-3290-5451, FAX 03-3290-5451

## テフラ研究委員会／男鹿-秋田野外巡検と集会のお知らせ

テフラ国内委員会事務局 都立大地理 町田 洋, 鈴木毅彦

日本第四紀学会のテフラ国内委員会では、1994-1995年の活動の一つとして、次のような野外巡検と研究会を企画しました。ふるってご参加下さい。

日時：1995年5月27（土）～29日（月）（2泊3日）

巡検：5/27-28 秋田県男鹿半島

研究集会：5/29 秋田市さとみ温泉

巡検のテーマ：男鹿半島の第四系層序と広域テフラ

- 内容：1) 傾動隆起した第四紀の海底堆積物とその中の指標テフラ  
（日本の主要な広域テフラが見られます）  
2) 海成段丘と堆積物からみた氷河性海面変化と地殻運動  
3) 海洋-陸の古環境 など

およそのコース：

5/27 脇本(鮭川層, pmt, B-0ga, Kc-Hb?) -- 生鼻岬(B/M境界附近の北浦層) -- 目湯 -- 戸賀(戸賀テフラ) -- 男鹿かんぼセンター

5/28 安田海岸(脇本, 鮭川, 安田, 湯西の各層, pmt, B-0g, Aso-3, Toya, Aso-4) -- 箱井(AT) -- 寒風山 -- 樽沢(湯西層, Toya) -- 鶏ノ木(SK) -- 福米沢(SK, On-Pm1) -- さとみ温泉

案内者：白石建雄・林信太郎

発表：研究集会での発表を受け付けます。テフラに関する話題なら特に制限はありません。ふるってお申し込みください。1発表15-20分位です。発表者は適宜OHPなどご用意下さい。

連絡先・組織委員：町田 洋（都立大／理／地理，八王子市南大沢1-1 P.0426-77-2593, F.0426-77-7589）白石建雄（秋田大／教育／地学，秋田市手形学園町1-1 P.0188-33-5261, F.0188-36-6738）

参加費：一般の方約30,000円 学生の方約25,000円  
（宿泊費，バス代，昼食代込み，最後に精算します）

申込：都立大・鈴木毅彦（P.0426-77-2594；F.0426-77-2589；e-mail:suzuki@geog.metro-u.ac.jp）まで，下記の事項を付記して4月24日（月）までにお申込み下さい。先着順40名の予定。申込金10,000円。郵便振替口座：00190-0-720271鈴木毅彦  
なお申し込み後5/6までにキャンセルされる場合は申込金を返却できます。また20名以下の場合中止。

集合場所と時間（予定）：5/27 11：40秋田空港；12：40JR秋田駅（昼食を済ませること）

解散の予定：5/29 16時ころ

宿泊場所：5/27 男鹿かんぼセンター（0185-23-2611）5/28 秋田さとみ温泉（0188-33-7171）  
秋田男鹿テフラ集会に申込まれる場合、次の点をお知らせください。  
氏名，連絡先（電話とfax番号も），発表の予定がある場合：テーマ，  
集合場所（秋田空港か秋田駅かの別），その他（質問、連絡・要望事項）

1995年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」の受賞候補者  
および研究助成候補者の推薦について

「三宅賞」は、地球化学の研究者で、海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者、ならびに海外における学術調査研究などに参加する者に対して地球化学研究協会が行っている研究助成です。上記研究助成の推薦依頼が本学会にきておりますので、詳しくは学会事務局、あるいは下記にお問い合わせ下さい。

地球化学研究会  
東京都杉並区高円寺北4-29-2-217  
TEL 03-3330-2455 (FAX兼用)

■IGBP 国際シンポジウム *IGBP-PAGES PEP-II Symposium on Paleoclimate and Environmental Variability in Austral-Asian Transect during the Past 2000 Years* の First Circular について

### INVITATION

An IGBP-PAGES/PEP-II International Symposium on climatic reconstruction from tree-rings, ice cores, historical documents, terrestrial deposits, lake sediments, corals and any other proxies with an emphasis on the Austral-Asian transect for the past 2000 years will be held at Nagoya University, November 28 - December 1, 1995. The symposium is open to international scientific community and the contribution of Quaternary research scientists would be very much appreciated. This symposium is sponsored and organized by Japan National Committee for IGBP, Science Council of Japan (日本学術会議) and Nagoya University.

### TOPICS AND QUESTIONS ASKED

The major focus of the symposium is to obtain integrated pictures of the past climate change and its variability from whatever the proxies available within the bound of the PEP-II transect of the Globe, i.e. pole-equator-pole (PEP) between 60 E and 180 E. This includes an overview of recent climatic reconstruction works by type of proxy source, as well as indepth comparison among reconstructions from different proxies.

Accordingly, the former half of the sessions will be allotted for proxy-wise overview by invited speakers, while the latter half (open session) will focus on comparison among different proxies for such specified periods as the Medieval Warm Epoch, Little Ice Age and Global Warming for the last hundred years to see any synchronicity and/or lags in search for plausible explanations of the mechanism involved.

Within this frame of symposium organization, the questions that might be asked are:

- When did the Medieval Warm Epoch begin and culminate?
- How did the termination of the Medieval Warm Epoch relate to the beginning of the Little Ice Age?
- When did the Little Ice Age culminate?
- How did the termination of the Little Ice Age relate to the onset of Global Warming?
- What variabilities are observed of Asian Monsoon in the last 2ka ?
- What is annual-decadal variability in Asian Monsoon ?
- What is the nature of expression of Asian Monsoon spatially and elevationally ?
- What are large scale teleconnections of climate in the PEP-II transect ?
- What are the forcing factors driving Asian Monsoon ?
- Which component of Asian Monsoon can be extracted from each proxy, i.e. summer monsoon, winter monsoon, westerlies, and so on ?
- What relationship is there between ENSO and Asian Monsoon ?
- How anomalous were the last 100 years in the time frame of the last 2000 years ?

### PROVISIONAL PROGRAM

November 28 : Registration and Keynote Addresses

November 29 : Proxy Overview by invited speakers Historical Documents, Tree Rings, Coral, Ice Cores and Terrestrial Sediments

November 30 : Time Slice Presentation I (Medieval Warm Epoch and Little Ice Age)

December 1 : Time Slice Presentation II (Last 100 Years and ENSO Events)  
Discussion and Closing Address

### REGISTRATION

Those who are planning to present a paper at the Symposium (Time Slice Presentation), please require the registration form which includes some questionnaire to the address below. Presentations will be oral, but possibility of poster presentation may arise in case all the applications can not be accommodated in oral sessions. Registration and questionnaire are due June 30, 1995. Registration fee amounting 20,000 Yen will cover Abstracts, coffee, reception and Proceedings.

Registration form and abstracts should be sent to Dr.T.Sweda, the Secretary of IGBP-PAGES Symposium shown below:

〒464-01 名古屋市千種区不老町  
 名古屋大学農学部 森林環境資源学教室  
 末田達彦  
 TEL: 052-789-4053 (直通) FAX: 052-789-4012

**ORGANIZING COMMITTEE**

E.Matsumoto(Chair:Nagoya Univ.), K.Endo (Nihon Univ.), T.Mikami (Tokyo Metropolitan Univ.), M.Nakawo (Nagoya Univ.), S.Ohta (Forestry & Forest Products Research Inst.), Y.Ono (Hokkaido Univ.)  
 T.Sweda(Secretariat:Nagoya Univ.)

**TIME SCHEDULE**

Registration and Submission to be received ..... June 30, 1995  
 Second Circular to be issued..... July 31, 1995  
 Abstract to be received..... August 31,1995  
 Full papers to be received..... November 28, 1995  
 Proceedings to be mailed out..... January, 1996

なお, 詳細は下記にお問い合わせください。  
 東京都立大学理学部地理学教室 三上岳彦  
 TEL: 0426-77-2596, FAX: 0426-77-2589,  
 E-mail: mikami@geog.metro-u.ac.jp

**INTERNATIONAL CONFERENCE ON QUATERNARY OF HIGH-MOUNTAINOUS REGIONS ( ICQMR) について**

上記国際会議の案内状が本学会宛にきておりますので, お知らせいたします。

**INVITATION**

It has been almost four years since the XIII INQUA congress, Beijing, 1991. A lot of great achievements on Quaternary research, especially on that of high-mountainous regions, have been gained all over the world in recent years. We (the organizing Committee of this Conference, ICQMR) believe that its necessary to hold a meeting for discussion and exchanging the viewpoints dealing with Quaternary problems of high mountainous regions. Therefore, ICQMR sponsored by SCNU, CQRA, IMAW and CNQA will be held at the beautiful campus of Southwest China Normal University, Chongqing, China, from July 5 ~ 15, 1995.

This conference include 3 days indoor meeting and 8 days' post-conference field trips to Jiuzhaigou etc., where are the most famous scenery and tourism regions in China. The conference will cater for the interest of scientists from all over the world and in all fields of Quaternary research. In view of your prominent achievements in this sphere, the Organization committee cordially invite you to attend the conference. We are sure that your articipation will be rewarding to you both professionally and society, as well as beneficial to all of us. Looking forward to seeing you in Chongqing.

Yours sincerely.

Please return theregistration form to:  
 Luo Lunde  
 Secretariat, ICQMR Conference Geography Department  
 Southwest China Normal University  
 Beibel, Chongqing 630715  
 The People's Republic of China

## 第1回第四紀学会講習会(変動地形の研究方法) 報告

第四紀学会主催の第1回講習会(変動地形の研究手法—阿寺断層)が昨年(1994)の8月17～18日に岐阜県坂下町で開かれました。50名を超える皆様から応募を頂きましたが、宿泊施設の制約などから参加者を30名に限らせていただきました。

17日は午後1時30分に坂下駅に集合し、坂下駅付近で阿寺断層による段丘の変位地形を察しました。夕刻は、宿の狭い風呂に交替で入りながら、空中写真の実体視による変位地形の抽出を実習しました。

18日はバスを貸し切り、下呂町まで北上し、阿寺断層の重要な変位地形を北から南へ順次見て行きました。ハンドレベルを使った断層変位の实習や断層露頭の観察・スケッチをやっているうちに、活断層やその研究方法がどんなものなのか、何となく納得された方が多いように見うけられました。夕食後、講師の地質調査所の佃 栄吉、栗田泰夫両氏の活断層の研究手法や阿寺断層についての講演とスライドショーがあり、活発な質問がありました。また、有志の方々はアルコールを嗜みながら、夜遅くまで活断層や各自の仕事、勉強、研究などについて話しあっていました。

19日の朝、参加者全員で坂下駅付近の断層を再度訪れ、断層崖をバックに記念写真を撮りました。参加者の一人は、「おとといは断層変位と言

われてもよくのみこめなかったが、今日改めて来てみて、「なるほど」と思った」と感想をもらっていました。天気にも恵まれ、怪我や事故もなく第1回講習会を終えることができました。参加者の皆様、ご苦労様でした。また、御応募頂きながら、参加できなかった皆様に心からお詫び申し上げます。

企画担当幹事 杉山雄一



活断層露頭(小野沢峠付近)の観察の様子

## 日本学術会議九州・沖縄地区会議主催 第四紀学地域交流会の報告

長崎大学 松岡数充

1995年3月16日(木)に九州大学文学部大会議室において、第四紀学地域交流会が開催された。これは日本学術会議九州・沖縄地区会議主催の1995年フォーラム「有明の海と人」の分野別研究会として企画されたもので、シンポジウムは九州大学大学院比較社会文化研究科の小池 裕子氏、会場は九州大学文学部考古学研究室の宮本一夫氏が世話役であった。

シンポジウムは午前10時から小池裕子氏のシンポジウム主旨説明にはじまり、長谷義隆・岩内明子(熊本大・教養)「有明海東方陸域最終氷期以降の植生変遷」、松岡数充(長崎大・教養)「九州西岸域における最終氷期最盛期以降の照葉樹林の拡大過程」、鹿島 薫(九大・理)「閉鎖性海域は人間活動にいかに関わってきたか—珪藻が語る環境変動史」、および 竹村恵二(京大・理・地球物理研究施設)のコメントがあった。

午後は、中田正夫(九大・理)「西九州のハイドロアイススタシー」、下山正一(九大・理)「有明海北岸低地の縄文海進規模と海岸線変化」、前田達男(佐賀市教委)「佐賀平野の臨海低地における遺跡の展開」、水ノ江和同(福岡県教委)「有明海をめぐる縄文早・前期の諸問題」、および山崎純男(福岡市埋蔵文化財課)のコメントが

あった。また総合ディスカッションは「Think Global, Act Local」にむけてであった。

シンポジウムの主旨は、これまで多岐にわたる研究主題をもった第四紀研究者の会合がほとんどなれなかった九州・沖縄地域の第四紀研究者が集まるきっかけを地域の研究テーマを論じる中で作り、さらにこれを機にこの地域の第四紀研究を進展させたいとのことであった。シンポジウム参加者は植物学、地理学、人類学、地質学、古生物学、地球物理学、考古学研究者や院生・学生が多数出席し、各話題について活発な質疑応答が行われた。総合ディスカッションでは「Think Globally, Act Locally」の姿勢を確立するために、先ずは九州・沖縄地域を中心とした文献データベースや遺跡データベースなどの作製を考える、さらに鹿島 薫氏から<sup>14</sup>C年代測定を行っている研究機関がないこの地域でそれをどの様に克服していくかなど話題がだされた。シンポジウムの後は場所を考古学研究室に移して和気あいあいとした懇親会がもたれた。このような会合は地域の第四紀研究を進展させるためのよい機会であり、今後もこのような会合をもつことが望まれる。



## 第2回講習会（古生態学調査法）参加報告

鈴木政憲（上越教育大院・地学教室）

1995年3月18日・19日の2日間にわたり、上記の講習会が木更津市小櫃川河口および千葉県立中央博物館で開催されました。

初日はJR木更津駅に集合、さらにそこから小櫃川河口へのタクシー移動でスタートしました。ところが参加者の日頃の行いがよほど悪いのか、横殴りの雨が吹き荒れ、木更津名物潮干狩りの解禁の日としてはあまりにもひどい天候となってしまいました。そのため午前中は、巡検を行うという予定を変更して、小櫃川河口近くの漁協の施設内から小櫃川を眺めながら、室内でのオリエンテーションおよび巡検に際しての事前の説明会となりました。たくさんの資料をいただき、講師の方々の説明を聞きながら、フィールドノートに熱心にメモをとる姿があちこちで見られました。

参加者は第四紀学会員以外、特に学部3年生が多いようでしたが、全体として年齢構成は幅広く、20才から60代までさまざまでした。また参加者の多くが千葉近郊の学生だろうという当初の私の予想は見事に外れ、遠くは山形、京都、広島など全国各地から集まってきたメンバーの顔ぶれを見るにつけ、この講習会によせる参加者の期待の高さがうかがえるようでありました。

各自持参した弁当で昼食をとった後、やや小降りとなった小櫃川河口の干潟に再びタクシーで移動し、いよいよ巡検が始まりました。案内者は、講師である小池裕子氏（九州大院比較文化研究科）、鹿島薫氏（九州大理学部地惑）、米林伸氏（千葉県立中央博物館）、江口誠一氏（大阪市大理学部生物学科）でした。巡検では、干潟を移動しながらいくつもの地点において説明を受け、実際に干潟を掘ったりしながら、地点ごとに異なる貝の群集構成や食性との関係などについて知ることが出来ました。実は私がこの巡検に参加したのも、大学では貝類などの古生物学を専攻しているにもかかわらず、現生の貝に関しては全くの勉強不足であるためでした。したがってその点で学ぶことの多い巡検となりました。その他にも珪藻や陸上植物のサンプルの採取方法を含め、簡易ボーリング

の仕方など、干潟におけるさまざまな調査方法を紹介していただきました。

初日の講習が終わり、タクシー・電車を乗り継いでホテルへ到着。この後は夕食を兼ねたコンバカ計画されました。そしてここでも講師の面々が案内者となり、土曜の夜にもかかわらずいきなり20数人分の席を設けるなど、朝から夜までの講師の方々の御尽力には頭の下がる思いでした。コンバカでは、昨日までは見も知らなかった者同士が隣り合ったこともあって、各人のそれぞれの研究内容や大学などの様子、果ては私生活までの情報交換もなされ、あちこちから大変盛り上がった会話が聞こえていました。私と一緒に参加したK氏も、他大学の学生の、学問に対する真剣な態度に多くの刺激を受けた様子でありました。このような講習会に参加する意義の一つとして、他地域の人の情報交換の有意性を大いに感じたところです。

2日目は会場を千葉県立中央博物館に移して、前日の巡検で得たサンプルを用いた講習が行われました。顕微鏡を使っての貝殻成長線観察、珪藻観察、植物珪酸体観察、花粉観察の4つの内容が用意され、各1時間ずつの講習となりました。どの内容も参加者が理解しやすいようにと、講師の方がなるべく噛み砕いて説明して下さったために、大変分かりやすいものとなりました。私は帰りの電車の関係で他の参加者よりも先に帰らなければならなかったため、米林伸氏（千葉県立中央博物館）の花分析の内容を聞くことが出来ず非常に心残りでしたが、3つの講習を受けたところで会場を後にしました。

この講習会に初めて参加して、参加者それぞれの学問に対する熱心さと意識の高さに触れたと同時に、こうした巡検・実習を伴う講習会を多くの人が待ち望んでいるのだという感を強くしました。最後に、案内・講習を行なってくださった講師の方々、事務局として参加者の調整に御尽力くださった地質調査所の杉山雄一氏、その他のスタッフの方々に厚くお礼申し上げます。



## 第四紀研究関連 科学研究費補助金 採択課題リスト

第15期第四紀研究連絡委員会 委員長 太田 陽子

第15期第四紀研究連絡委員会では、INQUAとの対応や関連学協会との連絡調整、第四紀研究の教育・研究の現状把握等を課題として検討してきた。今回ここに掲載するのは第四紀研究の現状として作成した平成元年から5年度までの科学研究費補助金の第四紀関係リストである。このリストは、各研連委員が分担して、科学研究費研究会編「文部省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」を参照しながら地質学・地理学・古生物学・地球化学・土壌学・人類・考古学などそれぞれの分野で採択された課題を収集して作成された。このデータベースをもとに第四紀通信原稿として、第四紀関連の研究課題、あるいは第四紀学会員の研究課題に限定し、それらの課題番号・細目番号・研究課題・研究代表者を掲載することにした。継続課題に関しては、初年度のみを掲載した。

なお、科学研究費補助金の国際学術研究に関しては、現在海外学術調査リストを別途作成中なので、それに一括して報告したい

平成元年度

領域	課題番号	細目	課題目	所属	代表者
<先史モンゴロイド>	1643001	43	先史モンゴロイド集団の拡散地域の自然環境	東京大学理学部助教授	米倉伸之
<先史モンゴロイド>	1643002	43	先史モンゴロイド集団の拡散と適応戦略	東京大学助教授	赤沢 威
<先史モンゴロイド>	1643003	43	最終氷期以降の北西太平洋における海洋環境の変遷	金沢大学教養部教授	大場忠道
<先史モンゴロイド>	1643004	43	拡散集団の食生態と時空分布（同位体による古栄養学,AMS法による年代測定	名古屋大学理学部教授	中井信之
<先史モンゴロイド>	1643503	43	化石周水河現象に基づく最終氷期の自然環境復元に関する研究	東京立大学理学部助教授	平川一臣
<先史モンゴロイド>	1643508	43	東日本における最終氷期以降の古環境変遷に関する研究	明治大学文学部教授	小嶋 尚
<先史モンゴロイド>	1643509	43	東北地方および北海道の最終氷期以降の大型植物化石群集	流通科学大学商学部講師	南木睦彦
<先史モンゴロイド>	1643005	43	オセアニア地域モンゴロイド系諸集団の系統関係	京都大学理学部助教授	片山一道
<先史モンゴロイド>	1643006	43	拡散集団の起源・系統（自然人類学）	札幌医科大学医学部教授	百々幸雄
<先史モンゴロイド>	1643007	43	東アジアおよび北米地域のモンゴロイド系集団の歯の形態にもとづく系統関係	独仙医科大学医学部講師	茂原信生
<先史モンゴロイド>	1643008	43	ヒト個体群の拡散に関する人口学的シュミレーション分析	昭和大学医学部助教授	正木基文
<先史モンゴロイド>	1643009	43	拡散集団の適応戦略	国立民族学博物館助教授	小山修三
<先史モンゴロイド>	1643010	43	拡散モデルの構築	国立民族学博物館教授	杉田繁治
<先史モンゴロイド>	1643011	43	東南アジア考古学の基本資料の収集及びデータベース作成のための整理	奈良国立文化財研究所	花谷 浩
<先史モンゴロイド>	1643501	43	食性分析における毛髪中炭素・窒素安定同位体比の指標としての妥当性の検討	東京大学医学部助手	本郷哲郎
<先史モンゴロイド>	1643502	43	陸生生物と地表水の炭素同位体比の相関及び変動	富山大学理学部助手	吉田尚弘
<先史モンゴロイド>	1643504	43	出土人骨のタンパクおよびDNAの構造解析	京都大学長類研究所教授	竹中 修
<先史モンゴロイド>	1643505	43	地理データベースの構築と知的インターフェイスに関する研究	京都工芸繊維大学教授	新美康永
<先史モンゴロイド>	1643506	43	シベリア地域モンゴロイド諸集団頭骨の形質人類学的研究	札幌医科大学医学部講師	石田 肇
<先史モンゴロイド>	1643509	43	オセアニアにおける先史モンゴロイド集団の拡散と適応	北海道東海大学助教授	印東道子
<先史モンゴロイド>	1643510	43	ミトコンドリアDNAからみたモンゴロイド集団の起源と系統	国立遺伝学研究所助手	宝来 聡
<先史モンゴロイド>	1643511	43	南アメリカにおける適応戦略としてのイモ型有田植物の栽培化	国立民族学博物館助教授	山本紀夫
<先史モンゴロイド>	1643512	43	北ユーラシア、アメリカ大陸における家犬の伝播とその系統について	奈良国立文化財研究所	松井 肇
<地球環境>	1646005	46	北半球における広域積雪の衛星気候学的研究	筑波大学地球科学系講師	安成哲三
<地球環境>	1646508	46	衛星データによる複数地形地における熱収支・水収支環境の解析	筑波大学地球科学系教授	河村 武
<地球環境>	1646519	46	衛星画像とDTMの重ね合わせによる温度環境の推定と森林帯分布の対応	東京立大学理学部教授	野上道男
総合研究 (A)	1302062	872	来る半世紀の地球の気候と日本の農林水産業・人間環境の推定に関する研究	筑波大学地球科学系教授	吉野正敏
総合研究 (A)	1302063	872	主要断層を例とした活断層の活動度と活動過程の研究	愛知県立大学文学部教授	岡田篤正
総合研究 (A)	62302062	872	南・北大東のサンゴ礁段丘からみた第四紀地殻変動の特性	横浜国立大学教育学部教授	太田陽子
総合研究 (A)	63302068	872	荒廃景観の比較研究	東京立大学理学部教授	門村 浩
総合研究 (A)	63304062	872	瀬戸内海沿岸の琵琶湖層コア解析による日・中両地域間の陸橋の存否	京都大学理学部教授	堀江正治
総合研究 (A)	63301057	134	縄文土器・弥生土器の付着物分析による用途の研究	国学院大学文学部教授	小林達雄
総合研究 (B)	1306012	461	西太平洋におけるマイクロプレートテクトニクスと古環境地図に関する国際共同研究	高知大学理学部教授	加賀美英雄
総合研究 (B)	1308010	462	底生有孔虫研究の国際協力体制推進に関する企画と準備	東北大学理学部教授	高柳洋吉
一般研究 (A)	63420018	461	陸上砕屑性堆積物の絶対年代測定、とくに線量年代測定法に関する研究	富山大学教養部助教授	竹内 章
一般研究 (A)	63430012	461	琉球弧を中心とする太平洋西縁域における後期新生代海洋環境変動の研究	琉球大学理学部教授	氏家 宏
一般研究 (A)	1400003	999	中海・宍道湖の環境変遷一風土記時代と現在の比較からみた将来予測	鳥根大学理学部教授	徳岡隆夫
一般研究 (B)	1450060	134	石質遺跡の新しい保存技術の開発に関する研究	東京国立文化財研究所研究員	西浦忠輝
一般研究 (B)	1460267	872	中期更新世以降における中国山地東部の山地・山麓の気候変動にもとづく地形編年	神戸大学教養部教授	田中真吾
一般研究 (B)	63460235	872	プレート内逆断層の活動度：地表変形メカニズム論にもとづく再評価	東京大学理学部助教授	米倉伸之
一般研究 (B)	63480027	462	微化石のバイオメトリーによる時間的および地理的変異の研究	東北大学理学部教授	高柳洋吉
一般研究 (C)	1510252	134	出土遺物と魚貝類遺存体の科学的対比に基づく弥生時代漁撈形態の地域特性の解明	神奈川県立博物館	神沢勇一

一般研究 (C)	1540341	432	湖沼堆積物の分析に基づいた地形変化地における土砂移動の長期的変化に関する研究	神戸大学研究科助手	柏谷健二
一般研究 (C)	63540312	432	湖底堆積物等の永年変化と古気候変動との関連性についての研究	三重大学教育学部助教授	福山 薫
一般研究 (C)	63540624	462	河岸段丘および火山地質からみた飛騨山脈の隆起の時期	富山大学教養部教授	藤井昭二
一般研究 (C)	1580233	871	再野生化家畜に関する地理学的研究	富山大学教育学部助教授	高橋春成
一般研究 (C)	1580234	871	赤石山地およびその外延地域の焼畑に関する研究	静岡大学教育学部教授	松本繁樹
一般研究 (C)	1580235	871	溜池水理システムと地域環境の保全—播州平野と讃岐平野の比較研究—	兵庫教育大学校教育学部教授	白井義彦
一般研究 (C)	1580237	871	災害復興にともなう地域の変容とその評価に関する研究	東京都立大学理学部助教授	松田盤余
一般研究 (C)	1580240	871	災害・開発に伴う集落移転の地生学的・社会構造的インパクト	明治大学文学部教授	石井素介
一般研究 (C)	1580241	872	中国地方臨海平野の形成における近世鉄六流し堆積物の意義	北海道教育大教育学部助教授	貞方 昇
一般研究 (C)	1580242	872	都市大気乾湿分布と長波放射場の水平構造との関係に関する都市気候学的研究	筑波大学地球科学系講師	小林 守
一般研究 (C)	1580243	872	積雪期の山地斜面における温度環境の解析に関する研究	筑波大学地球科学系助手	山下孔二
一般研究 (C)	1580244	872	近世小水期の気候特性とその成因—近畿・東海地方の場合—	三重大学人文学部教授	水越允治
一般研究 (C)	1580245	872	長野県上高地における現在の地形変化の研究と地形災害危険度地図の作成	三重大学人文学部助教授	岩田修二
一般研究 (C)	1580246	872	中国山地の斜面堆積物に挟まれた中・後期更新世の火山灰の対比と編年に関する研究	神戸大学教養部助教授	野村亮太郎
一般研究 (C)	1580247	872	桜島の噴火・噴煙活動と酸性雨現象との関連およびその水文環境への影響	鹿児島大学教育学部教授	塚田公彦
一般研究 (C)	1580248	872	河岸段丘崖の斜面発達に関する定量的研究	中央大学理工学部教授	鈴木隆介
一般研究 (C)	62580186	871	松前蝦夷地における集落立地に関する研究	北海道大学文学部教授	羽田野正隆
一般研究 (C)	63580184	871	花卉・野菜の山上げ栽培と主産地形成に関する生態地理学的研究	筑波大学地球科学系助教授	斎藤 功
一般研究 (C)	63580190	871	多次元尺度構成法 (MDS) による認知地図研究	東京都立大学理学部助教授	杉浦芳夫
一般研究 (C)	62580192	871	日本古代律令期に敷設された直線的計画道の復原的研究	国学院大学文学部教授	木下 良
一般研究 (C)	63580194	872	岩屑流の流下に伴う谷底の浸食について	筑波大学地球科学系教授	砂村健夫
一般研究 (C)	63580196	872	沖積平野における上部砂層の特性とその形成に関する研究	名古屋大学文学部助教授	海津正倫
一般研究 (C)	62580199	872	地下水の水質の形成機構に関する研究	三重大学教育学部教授	森 和紀
一般研究 (C)	63580197	872	海陸風の構造と空中花粉の動態への影響に関する研究	広島大学総合科学部教授	福岡隆隆
一般研究 (C)	62580201	872	主要活断層発掘調査地点周辺地域の地形・地質学的精密調査	愛知県立大学文学部教授	岡田篤正
一般研究 (C)	62580202	872	南西諸島、石灰岩地域の人為による自然環境の変化	駒沢大学文学部教授	長沼信夫
一般研究 (C)	63580199	872	伊豆諸島における人類遺跡と火山噴出物の対比・編年に関する研究	明治大学文学部教授	杉原重夫
奨励研究 (A)	1780271	871	日本における基地の文化特性に関する地理学的研究	筑波大学地球科学系講師	中川 正
奨励研究 (A)	1780272	871	漁民の活動の時間地理学的研究—自然および社会制約条件の観点から	新潟大学教養部講師	郷谷圭司
奨励研究 (A)	1780274	871	重工業労働者の社会空間：八幡製鉄所労働者の分析を通じて	富山大学人文学部講師	水内俊雄
奨励研究 (A)	1780276	871	山の民の移動パターンと生業に関する定量的比較研究	鳥取大学教養部講師	松尾裕孝
奨励研究 (A)	1780277	871	スケープ・フリンジ地図による都市地域の土地利用パターンに関する研究	広島大学文学部助手	土井晴洋
奨励研究 (A)	1780278	871	土砂災害の集落立地および住宅建築からみた災害認知・防災対策の比較研究	広島大学文学部助手	牧野一成
奨励研究 (A)	1780282	871	距離に対する吉凶観の欠如からみた日本の伝統的空間認識の特質に関する研究	城西大学経済学部助教授	小口千明
奨励研究 (A)	1780283	871	江戸幕府領国絵図の地理学的・地理思想史的研究	大阪学院大学教養部助教授	吉田敏弘
奨励研究 (A)	1780285	871	条理地割の形成過程を再検討するための奈良盆地データベース作成の試み	奈良大学文学部講師	藤田裕嗣
奨励研究 (A)	1780286	872	北上川河口付近の沖積層と最終氷期以降の北上川の河道変遷に関する研究	岩手大学教育学部助教授	松本秀明
奨励研究 (A)	1780287	872	凍結・融解にともなう斜面物質移動に関する実験的研究	筑波大学地球科学系講師	松岡憲知
奨励研究 (A)	1780288	872	GMS領域における前線活動の時空間構造について	筑波大学地球科学系助手	山川修治
奨励研究 (A)	1780289	872	丘陵地源流域の洪水形成における地下水の役割に関する研究	東京都立大学理学部助手	鈴木啓助
奨励研究 (A)	1780290	872	洪積台地における浸食谷の発達と地中水循環プロセスの相互作用に関する研究	東京都立大学理学部助手	近藤昭彦
奨励研究 (A)	1780291	872	東北地方南部の多雲山地における湿原の形成と森林植生の変遷に関する研究	明治大学文学部助手	叶内敦子
奨励研究 (A)	1780292	872	北陸地方の冬季降水量分布の年々変動に関する気候学的研究	福井工業大学工学部講師	田坂都夫
奨励研究 (A)	1790343	461	海底扇状地の地形発達過程と堆積機構	九州大学特別研究員 P D	武藤藤司
奨励研究 (B)	1916006	251	前橋市付近に分布する前橋泥炭層の水平分布の調査ならびに前橋泥炭層の教材化について	群馬県前橋市立女子高教諭	山岸勝治
奨励研究 (B)	1916007	251	房総半島西岸における地質教材の基礎的研究—特に上総層群中の砂層と礫層について	埼玉県白岡町青森小教諭	石井隆司
奨励研究 (B)	1916009	251	下総層群の古地磁気学的研究	千葉県成田田園芸高教諭	曾田信行
奨励研究 (B)	1916010	251	東京都江戸川低地における沖積層の、微化石 (珪藻及び珪質鞭毛藻) と柱状図による研究	東京都江戸川区小松川第三	小沢静江
奨励研究 (B)	1916012	251	関東地方西部における谷底平野の類型化	神奈川県高工高主事	渡辺一夫
奨励研究 (B)	1916023	251	大阪層群下部から最下部の花弁変遷	大阪府住吉学園高教諭	竹本浩
奨励研究 (B)	1916032	251	北部九州、英彦山西方小石原地域の後期新生代火山層序および地質構造について	大分県大分鶴崎高教諭	根子尚典

平成2年度

領域	課題番号	組目	課題名	所属	代表者
特別推進研究	2102001		島弧における地殻構造の高分解能三次元探査—ストラトテクトニクス理論構築に向けて—	東京大学海洋研究所教授	平朝彦
<先史モンゴロイ>	2225104	43	海底コアおよび浅海性堆積層の研究に基づく北西太平洋の海洋古環境復元	金沢大学教養部教授	大場忠道
<先史モンゴロイ>	2225204	43	日本列島の最終間氷期以降の海況変化にともなう植生の時空間変化と拡散モデル	神戸大学教養部	松下まり子
<先史モンゴロイ>	2225205	43	後期更新世大型哺乳類の生物計測学的研究	香川大学教育学部助教授	仲谷英夫

第四紀研究連絡委員会から

<先史モンゴロイド>	2225206	43	グロビン遺伝子の変異に基づくアジアにおける先史モンゴロイド集団の拡散に関する研究	九州大学助教授	服巻保幸
<先史モンゴロイド>	2225215	43	日本における最終氷期と後氷期の古環境変遷に関する研究	明治大学文学部教授	小嶋 尚
<先史モンゴロイド>	2225216	43	更新世末に起こった新世界産陸生哺乳類の大絶滅に関する研究	国立科学博物館研究員	富田幸光
<先史モンゴロイド>	2225210	43	文化装置としての寒地適応戦略—北ユーラシアと北アメリカ	名古屋市立大学教養部教授	斉藤農二
<自然災害>	2201206	1	東北地方に分布する第四紀火山噴出物とその災害	秋田大学鉱山学部教授	丸山孝彦
<自然災害>	2201221	1	大地震に伴う活断層の再活動を予測するための研究	静岡大学教育学部教授	岩橋 徹
<自然災害>	2201243	1	日本における歴史時代の噴火災害と発生頻度	都立大学理学部教授	町田 洋
<近代化と環境変化>	2243112	101	近代化による環境変化の地理情報システム	立正大学文学部教授	西川 治
<近代化と環境変化>	2243109	101	近代化にともなう自然災害の変貌	都立大学理学部助教授	松田磐余
<近代化と環境変化>	2243105	101	サンゴ礁環境のデータベース化と時空間分析	三重大学人文学部教授	目崎茂和
<近代化と環境変化>	2243214	101	海跡湖の湖底・湖岸の微地形分類を基礎とした湖沼環境変遷図の作成とデータ・ベース化	愛媛大学教育学部助教授	平井幸弘
<近代化と環境変化>	2243219	101	地理情報としての地表形態の数量的表現	中央大学理工学部講師	大内俊二
<近代化と環境変化>	2243222	101	東京湾水系の水域変化に関する歴史自然地理学的研究	早稲田大学教育学部教授	大矢雅彦
<近代化と環境変化>	2243108	101	原環境の復元	都立大学理学部教授	野上道男
<近代化と環境変化>	2243206	101	地形・植生数値情報による多 丘陵の環境・景観復元	東京大学農学部助教授	熊谷洋一
<近代化と環境変化>	2243223	101	接峰面上での水系網のシュミレーションによる原水系と河谷の復元	徳山大学経済学部助教授	大竹義則
総合研究 (A)	2302028	461	長野県野尻湖周辺における2万年前以後の無機的自然界の復元	群馬大学教養部教授	野村 哲
総合研究 (A)	2302091	872	日本列島における海岸環境の変遷	駒澤大学文学部教授	小池一之
総合研究 (A)	2303007	462	セジメント・トラップに基づく北西太平洋における物質循環に関する研究	金沢大学教養部教授	大場忠道
総合研究 (A)	2305012	999	データベースを利用した貝塚遺跡の総合的研究	国立教育研究所研究員	及川昭文
総合研究 (B)	2352028	872	第6回南極地学国際シンポジウムにおける南極地殻の総合解析と発達史の解明の討議準備	国立極地研究所教授	吉田栄夫
総合研究 (B)	2352015	461	地殻流動の総合的解明	静岡大学理学部教授	新妻信明
一般研究 (A)	2404008	462	生物体硬組織をつくるメソスコピック構造の機能的意義	京都大学理学部教授	鎮西清高
一般研究 (B)	2452060	432	南北両極の雪氷コアを用いた過去1000年の気候・環境システムの変動に関する研究	国立極地研究所教授	渡辺興亜
一般研究 (B)	2455003	999	大雪山国立公園における自然環境の保全と管理に関する基礎的研究	北海道大学教授	小野有五
一般研究 (B)	2451054	134	中国地方旧石器文化の編年と生活址の研究	岡山大学文学部助教授	稲田孝司
一般研究 (C)	2640603	461	琉球弧海溝斜面のピストン・コアの古海洋学的研究	琉球大学理学部教授	氏家 宏
一般研究 (C)	2640608	462	日本産第四紀食虫類化石の系統・分類学的研究	愛知教育大学助教授	河村善也
一般研究 (C)	2680199	872	北アトリア断層帯とその周辺地域の第四紀テクトニクス	東京大学理学部助手	池田安隆
一般研究 (C)	2680200	872	東アジアにおける黄土と風成塵の研究	兵庫教育大学教授	成瀬敏郎
一般研究 (C)	2680201	872	泥炭層の物理的分析からみた後氷期における山地斜面の安定性の変遷	奈良女子大学文学部助教授	相馬秀広
一般研究 (C)	2680202	872	大規模火砕流台地の生成過程の研究	熊本大学教育学部教授	横山勝三
一般研究 (C)	2640602	461	四国山脈から土佐湾にかけての中・後期更新世のモラッセ性堆積物の研究	高知大学理学部教授	加賀美英雄
一般研究 (C)	2680197	872	崖錐斜面の形成機構に関する地形学的研究	筑波大学地球科学系助教授	松倉公憲
一般研究 (C)	2610187	134	フローテーション法を用いた東北・北海道両地域の古代農耕技術拡散についての研究	北海道大学文学部助教授	吉嶋昌一
一般研究 (C)	2610188	134	旧石器時代中部ヨーロッパにおける打製骨器の集成的研究	新潟大学人文学部助教授	小野昭
一般研究 (C)	2610190	134	南西諸島北部と九州親潮海域の石器の比較研究	熊本大学文学部教授	白木原和美
一般研究 (C)	2610191	134	個体別分析による縄文時代イルカ捕獲活動の研究	金沢医科大学医学部助教授	平口哲夫
一般研究 (C)	2610192	134	農耕開始期における土器組成の考古学的研究 (壺型土器の出現と農耕的煮沸形態の成立)	国立歴史民俗博物館助手	藤尾慎一郎
奨励研究 (A)	2780216	872	東北地方南部の山地湿地の形成過程と最終氷期の古環境に関する研究	明治大学文学部助手	叶内敦子
奨励研究 (A)	2858075	872	有明湾沿岸低地における自然環境の変遷と自然災害	九州大学教養部助教授	鹿島薫
奨励研究 (A)	2710168	134	宮城東北地域における前期旧石器時代研究	東北大学文学部助手	佐久間光平
奨励研究 (A)	2710169	134	木製遺物から見た日本列島における農耕社会形成過程の研究	筑波大学歴史人類学系助手	山田昌久
奨励研究 (A)	2710170	134	縄文時代後期の広域土器分布圏成立に関する研究	(財)古代学協会助手	西田泰民
奨励研究 (A)	2710175	134	後期旧石器時代の石斧—再生加工の変遷を視点として—	早稲田大学助手	長崎潤一
奨励研究 (A)	2740411	481	北海道島牧村大平川鍾乳洞における旧石器時代人骨の発掘調査	札幌医科大学医学部助手	松村博文
奨励研究 (特)	2952192	872	大雪山における現在の周水河環境と北海道の過去の周水河環境	北海道大学特別研究員P	曾根敏雄
奨励研究 (特)	2952195	872	東北日本における断層活動と山地・盆地形成との関係	東京大学特別研究員P	渡辺満久
奨励研究 (特)	2951202	872	南海トラフに伴う地域における巨大地震と完新世地殻変動との関係	広島大学特別研究員P	前李英明
奨励研究 (特)	2952193	872	東北日本内帯における活断層の活動様式の地形学的比較研究	東京大学特別研究員D	鈴木康弘
奨励研究 (B)	2916001	251	北海道渡島半島知内川流域の段丘と更新世火山灰層序	北海道文・財団法人職員	花岡正光
奨励研究 (B)	2916004	251	群馬県中之条盆地における中期更新世の火山灰層序の研究	群馬法律専門学校講師	矢口裕之
奨励研究 (B)	2916022	251	遷居の時代的变化からみた最終氷期から現在までの環境変化	愛知、明和高教諭	藤井登美夫
奨励研究 (B)	2916028	251	富田林市石川河床の哺乳動物群足跡化石と埋没林の時代と古環境の研究および教材化	大阪・富田林高教諭	森山義博
奨励研究 (B)	2916029	251	紀伊半島南部における最終間氷期の古植物相・古植生に関する花粉分析学的	和歌山・南部高教諭	渡瀬敏文

試験研究 (A)	2509001	999	DNAテクノロジーによる古代社会構造解析法の開発 (吉野ヶ里遺跡をモデルとして)	東京大学理学部教授	植田信太郎
試験研究 (A)	2554027	461	人工知能型の全自動フィッシュン・トラック地質年代測定システムの開発	大阪市立大学理学部教授	弘原海清

平成3年度

領域	課題番号	題目	課題目	所属	代表者
<先史モンゴロイド>	3209208	43	先史モンゴロイド集団の北方拡散と日本列島への移住	札幌大学教養部教授	木村英明
<自然災害>	3201125	1	中部日本における火山体の巨大崩壊堆積物の特性に関する調査研究	信州大学教育学部教授	河内晋平
<自然災害>	3201107	1	火山配列と噴火位置の変遷—噴火予知に向けて	東北大学理学部助手	長谷中利明
<自然災害>	3201112	1	火山災害の規模と特性	北海道大学理学部教授	荒巻重雄
<自然災害>	3201113	1	内陸地震活動の総括的評価に関する研究	東京大学地震研究所教授	溝上 恵
<自然災害>	3201114	1	浅海調査による中央構造線活断層系西部・別府地溝帯の地震特性評価	東京大学地震研究所教授	島崎邦彦
<自然災害>	3201115	1	表層地質の影響を考慮した強震動予測—神奈川県足柄平野をテストフィールドとして—	東京大学地震研究所助手	工藤一嘉
<自然災害>	3201122	1	噴火メカニズムと災害	電気通信大学教授	松尾禎士
<自然災害>	3201126	1	資料の収集・解析に基づく自然災害に対するリスクの比較研究	名古屋大学工学部教授	高木不折
<自然災害>	3201127	1	弱部の形成・拡大過程を考慮した斜面崩壊予知法の開発	豊橋技術科学大工助教授	河邑 真
<自然災害>	3201228	1	降下火砕流噴火及び火砕流噴火における弾道堆積物の到達範囲の推定	神戸大学理学部助手	鎌田桂子
<文明と環境>	3230101	104	海洋環境の変動と文明の盛衰	北海道大学理学部教授	小泉 格
<文明と環境>	3230105	104	火山噴火が気候と文明に与えた影響	東京都立大学理学部教授	町田 洋
<文明と環境>	3230108	104	日本海沿岸地域における地形環境の変遷と文明の盛衰	立命館大学文学部教授	日下雅義
<文明と環境>	3230110	104	日本列島西部における気候・植生の変遷に関する花粉分析学的研究	岡山理科大学理学部教授	三好敬夫
<文明と環境>	3230113	104	気候・植生の変遷と文明の盛衰	国際日本文化センター助教授	安田喜憲
総合研究 (A)	3302062	872	小氷期の気候変動に関する研究	東京都立大学理学助教授	三上岳彦
総合研究 (B)	3354025	872	熱帯モンスーンアジア地域の古環境に関する予備的研究	広島大学文学部教授	藤原健蔵
総合研究 (B)	3352013	461	第29回万国地質学会議 (IGC) のための科学プログラム実施計画	東京大学理学部教授	久城育夫
一般研究 (B)	3452069	462	地層の堆積構造から水理条件を推定するための実験的研究	大阪大学教養部助教授	増田富士雄
一般研究 (B)	3452304	872	都市化に伴う水循環の変化に関する研究	筑波大学地球科学系教授	権根 勇
一般研究 (B)	3454554	872	サンゴ礁の地形構成にみる寸づまり現象とその成因	広島大学総合科学部助教授	堀 信行
一般研究 (B)	3451057	134	水中考古遺物の保存に関する研究	昭和女子大学家政学部教授	江本義理
一般研究 (B)	3451058	134	出土鉄器の鉛同位体法による原料産地の推定	東京国立文化財研究所研究員	平尾良光
一般研究 (C)	3640656	462	加速器質量分析法による3万年前より古い地層の正確なc-14年代測定	名古屋大学助教授	中村俊夫
一般研究 (C)	3804063	461	箱根火山の巨大地すべりと南関東の大地震との関係についての研究	新潟大学教授	大木晴衛
一般研究 (C)	3640657	462	九州西方海域における過去2万年間の海洋環境の変動	熊本大学理学部助教授	尾田太良
一般研究 (C)	3680210	872	大陸地域と島弧の火山の地形・発達史に関する比較研究	金沢大学文学部教授	守屋以智雄
一般研究 (C)	3680211	872	熱ルミネッセンス法による山陰地方の中・後期更新世降下テフラの年代測定に関する研究	神戸大学教養部助教授	野村亮太郎
一般研究 (C)	3680213	872	浸食段丘における基盤岩石の風化速度の野外測定	中央大学理工学部教授	鈴木隆介
一般研究 (C)	3640209	134	自然科学的分析による土器の材質および製作技術の復原的研究	京都大学文学部助手	清水芳裕
一般研究 (C)	3610213	134	弥生時代のブタについて	国立歴史民俗博物館助教授	西本豊弘
一般研究 (C)	3640681	481	古代人の性差—時代的変化とその要因—	九州大学医学部講師	中橋孝博
一般研究 (C)	3640682	481	吉野ヶ里弥生人集団の人類学的研究	長崎大学医学部助教授	松下孝幸
奨励研究 (A)	3780219	872	人工衛星航法装置を用いた河岸段丘形態の計測	お茶の水女子大文教育講師	杉谷隆
奨励研究 (A)	3780222	872	西南日本外帯南部の更新世海成段丘発達史と第四紀地殻変動の定量的解明	広島大学文学部助手	前全英明
奨励研究 (A)	3858070	872	現成サンゴ礁の礁斜面にみられる段化地形と完新世の海水準変化に関する研究	有明大講師	中島洋典
奨励研究 (A)	3780217	872	東北日本内帯、内陸盆地縁の断層変位地形と断層運動時期	東北大学理学部助手	平野信一
奨励研究 (A)	3858068	872	台地防災のための斜面崩壊の予測に関する基礎的研究	千葉大学理学部助手	宮内崇裕
奨励研究 (A)	3858069	872	対馬沿岸における自然環境の変遷	九州大学教養部助教授	鹿島 薫
奨励研究 (A)	3710174	134	東日本後期旧石器時代の層位学的編年研究	東北大学文学部助手	会田容弘
奨励研究 (A)	3710175	134	縄文時代の集落構成にみる定住的・半定住的様相の考古学的研究	東京大学文学部助手	武藤康弘
奨励研究 (A)	3710177	134	日本における土器出現期の研究	国学院大学文学部助手	谷口康浩
奨励研究 (A)	3710178	134	縄文時代遺跡出土動物遺存体のデータベースのための基礎資料の作成	いわき短期大学講師	山崎京美
奨励研究 (A)	3710179	134	残留脂肪酸分析による先史時代・古代の調理方法の研究	北陸学院短期大学助教授	小林正史
奨励研究 (A)	3740422	481	P C R法を用いた弥生人集団のDNAの解析	佐賀医科大学医学部助手	藤田謙一
奨励研究 (A)	3740424	481	歯と頭骨形態からみた日本人の源流—東アジア・太平洋の人種形成を探る	自治医科大学医学部助手	植原垣彦
奨励研究 (B)	3916006	251	関東平野中央部における完新世の火山灰層について	埼玉大 越ヶ谷高教諭	清水康守
奨励研究 (B)	3916007	251	上総層群日本層の古地磁気学的研究	千葉大 佐原高教諭	会田信行
奨励研究 (B)	3916008	251	東京都産出第四紀昆虫化石の研究	慶應義塾幼稚舎教諭	相場博明
奨励研究 (B)	3916011	251	古植生研究による関東地方の古環境推定	東京学芸大附属大泉中教諭	堀内順治
奨励研究 (B)	3916019	251	常滑層群中の礫から推定する三河高原の陸起運動と「古設楽火山体」の開析	愛知大 平洲中教諭	吉村曉夫
奨励研究 (B)	3916018	251	河川堆積物の堆積相—木曾川、庄内川、矢作川を例にして—	名古屋大 第二工芸高教諭	中山勝博
奨励研究 (B)	3916021	251	愛知川川床古琵琶湖層中に発見された立木化石の年輪の変形について	滋賀大 河瀬高教諭	小早川隆
奨励研究 (B)	3916025	251	高槻市における古地理と古植生の変遷に関する研究—新池遺跡の花粉分析	大阪大 冠中教諭	松江実千代
奨励研究 (B)	3916034	251	南九州に分布する第四紀火山噴出物の層序と考古遺跡への応用およびその教	鹿児島大 五郎高教諭	成尾英仁

第四紀研究連絡委員会から

研究種別	年度	課題番号	題目	研究課題	所属	代表者
奨励研究 (B)	平成4年度	3916027	251	熊野浦の海浜の変遷に関する基礎的研究とその教材化	和歌山新宮市私立新宮高教諭	後誠介
特別推進研究	平成4年度	4101001		古代生活環境復原のための新手法の確立	国立歴史民俗博物館副館長	佐原 眞
<自然災害>		4201211	1	災害の進化	富山大学教養部教授	藤井昭二
<遺跡調査>		4214113	106	遺跡調査法の総合的開発研究	奈良国立文化財研究所	西村 康
<遺跡調査>		4214108	106	被熱遺構調査—被熱ノイズ過多遺構及び微弱被熱遺構の研究—	岡山大学文学部教授	稲田孝司
<遺跡調査>		4214203	106	電磁気調査および古地磁気による遺跡調査法の開発研究	富山大学人文学部助教授	宇野隆夫
<海洋フラックス>		4232211	218	深海生底生有孔虫の生物生産とオーシャンフラックス—観測と実験—	静岡大学理学部助教授	北里 洋
総合研究 (A)		4301049	134	縄文晩期前葉—中葉の広域編年	北海道大学文学部助教授	林 謙作
総合研究 (B)		4352032	872	わが国のIGCP研究推進と国際対応	愛知大学文学部教授	吉野正敏
一般研究 (A)		4402014	462	白黒ラミナによる高精度サイクル層序学	北海道大学理学部教授	小泉 格
一般研究 (A)		2404008	462	生物体硬組織をつくるメソスコピック構造の機能的意義	京都大学理学部教授	鎮西清高
一般研究 (B)		4452078	461	沖積トラフの中央機構および熱水域の北方延長の調査・研究	琉球大学理学部助教授	木村政昭
一般研究 (B)		4452330	872	東日本の湿原堆積物から見た後期更新世・完新世の環境変化に関する研究	明治大学文学部教授	杉原重夫
一般研究 (B)		4454033	462	化石DNA及び現在種の遺伝子情報にもとづく生物の分子進化学的研究	名古屋大学理学部助教授	小沢智生
一般研究 (B)		4454032	462	海底洞窟に生息する軟体動物の進化学的研究	東京大学理学部教授	速水 格
一般研究 (B)		4454034	481	ジャワ島出土ホモ・エレクトス化石の形態学的・年代学的研究	国立科学博物館	馬場悠男
一般研究 (B)		4451079	134	旧石器・縄文時代哺乳動物遺体の化石生成論的研究	岡山大学文学部教授	稲田孝司
一般研究 (B)		2451056	134	石器製作経過復原と製作追試実験研究	奈良国立文化財研究所	松沢亜生
一般研究 (C)		4640719	462	離水サンゴ礁のウラン系列年代測定からみた琉球弧の第四紀地殻変動解析	金沢大学理学部助教授	大村明雄
一般研究 (C)		4680247	872	沖積平野における泥炭地・泥炭層の形成・発達とその形成環境に関する研究	名古屋大学文学部助教授	海津正倫
一般研究 (C)		4680248	872	鹿児島湾周辺における第四紀後期の細粒火山灰層にかんする古環境的研究	鹿児島大学法文学部助教授	森脇 広
一般研究 (C)		4680251	872	大雪山地域の周水河現象とその環境に関する研究	北海道大学教養部助教授	高橋伸幸
一般研究 (C)		4640714	461	近畿地方の地形・地質情報と斜面変動の情報の統合化に関する研究	大阪工業大学工学部教授	藤田 崇
一般研究 (C)		4680249	872	日本における小水期後半の気候復元	都立大学理学部教授	三上岳彦
一般研究 (C)		4808041	872	扇状地の発達に関する熱帯湿潤地域と温帯湿潤地域の比較研究	埼玉大学教育学部助教授	斎藤享治
一般研究 (C)		4680250	705	日欧の中性・近世の気候変動に関する研究	富山大学教育学部助教授	田上善夫
一般研究 (C)		4610246	134	弥生時代・大陸系磨製石器の編年綱の作成と地域間の比較研究	愛媛大学法文学部教授	下條信行
一般研究 (C)		4610253	134	北海道における雑穀およびその栽培技術の拡散過程について	北海道開拓記念館研究員	山田悟郎
奨励研究 (A)		4780245	872	北海道の山岳永久凍土の発達	北海道低温科学研助手	曾根敏雄
奨励研究 (A)		4780246	872	北アルプス、立山連峰、内蔵助カールにおける周水河環境と周水河地形の研究	北海道大学助手	渡辺悌二
奨励研究 (A)		4780247	872	テフロクロノロジーによる北海道南部カルデラの発達史に関する研究	上越教育大学助手	山縣耕太郎
奨励研究 (A)		4858063	872	最終氷期以降の気候変化にともなう流域内の土砂移動の変遷	東京大学理学部助手	小口 高
奨励研究 (A)		4710193	134	実験使用痕分析法による東北日本縄石刃文化期石器群の機能研究	東北大学文学部講師	阿子島香
奨励研究 (A)		4710200	134	残留脂肪酸分析による先史時代・古代の調理方法の研究	北陸学院短期大学助教授	小林正史
奨励研究 (A)		4710201	134	石器石材の岩石学的分類	東京国立文化財研究員	朽津信明
平成5年度	平成5年度					
領域	課題番号	題目	研究課題	所属	代表者	
<文明と環境>	5203108	104	東アジアにおける近世の気候変動の機構及びその影響	愛知大学文学部教授	吉野正敏	
<遺跡調査>	5205101	106	海底遺跡の深度と分布と海水量荷重効果理論値と掘削法に基づいて調査する	山形大学教育学部教授	前田保夫	
<遺跡調査>	5205207	106	プラント・オパール分析法および電気探査法による水田遺構の事前探査法に関する研究	宮崎大学農学部教授	藤原宏志	
<マグマ>	5231204	232	テフロクロノロジーによる北関東8火山(四阿山~那須岳)の100万年噴火史と噴出量	群馬大学教育学部助教授	早川由紀夫	
総合研究 (A)	5302025	334	変動帯日本における陸上學術ボーリング候補地点選定	静岡大学理学部教授	新妻信明	
総合研究 (A)	5304002	335	化石底生動物群の群集構造: その安定性と変革	京都大学理学部教授	鎮西清高	
一般研究 (A)	5404077	801	サンゴ礁生態系における物質循環と環境変動	東京大学理学部教授	米倉伸之	
総合研究 (A)	5405002	999	第四紀中央アジアの乾燥化と大気循環変動の解明	東京大学理学部助教授	多田隆治	
一般研究 (A)	5405003	999	DNAテクノロジーによる古代社会構造の解明	東京大学理学部助教授	植田信太郎	
一般研究 (B)	5455019	999	西太平洋赤道域から琉球弧にいたる暖流系の後期第四紀環境変動	琉球大学理学部教授	氏家 宏	
一般研究 (B)	5454005	351	ミトコンドリアDNAからみた現生人類の起源	国立遺伝学研究所助教授	宝来 聡	
一般研究 (C)	5640512	335	第四系の酸素同位体比・花粉分析・古地磁気に基づく気候変化と国際的対比	金沢大学教育学部教授	藤 則雄	
一般研究 (C)	5640522	335	花粉分析による古琵琶湖層群の生層序ならびに古環境変遷の研究	大阪市立自然史博物館	那須孝悌	
一般研究 (C)	5640492	334	下北半島海浜湖沼群の底質堆積物に挟在する津波堆積物の検出	東北大学理学部助教授	箕浦幸治	
一般研究 (C)	5640510	335	サンゴの成長輪(日輪・月輪・年輪)に関する基礎的研究	東北大学理学部教授	森 啓	
一般研究 (C)	5640513	335	化石長鼻類(ゾウ)の歯の微細構造の機能形態学的意義	京都大学理学部助手	神谷英利	
一般研究 (C)	5640517	335	北西太平洋域における第四紀以降の深層循環変動の解明	富山大学理学部講師	安田尚登	
一般研究 (C)	5640518	335	南西諸島に於ける島嶼型哺乳動物化石相の形成過程に関する研究	鹿児島大学理学部教授	大塚裕之	
一般研究 (C)	5640519	335	海洋環境の変動による底生有孔虫群集の変化に関する研究	鹿児島大学理学部助教授	大木公彦	
一般研究 (C)	5640545	337	炭素・窒素安定同位体を用いた海洋のグローバルモニタリングのための基礎的研究	東京大学海洋研研助手	才野敏郎	
一般研究 (C)	5640548	337	一酸化二窒素とメタンの地球化学的循環の同位体による解析	富山大学理学部助手	吉野尚弘	

一般研究 (C)	5680140	705	近世小氷期の気候特性とその成因—近畿・東海地方の場合—	三重大学人文学部教授	水越允治
一般研究 (C)	5680142	705	東アジアにおける最終氷期のダスト・フラックス変化と古環境	兵庫教育大学校教授	成瀬敏郎
一般研究 (C)	5680143	705	多雲山地の泥炭層の堆積開始期と堆積速度の変化からみた最終氷期以降の降雪量変化—北アルプスから中国山地を対象として—	奈良女子大学文学部助教授	相馬秀廣
一般研究 (C)	5808016	705	湖水の湖岸への乗り上げに伴う堆積物の運搬について	北海道教育大学教授	佐々木誠
一般研究 (C)	5808017	705	富士山におけるカラマツの生長解析に基づく気候復元の試み	東京都立大学理学部助手	岡 秀一
一般研究 (C)	5680356	751	東北日本の第四紀火山で発生した岩屑流の特性と岩屑流災害の予測	宇都宮大学教育学部助教授	中村洋一
一般研究 (C)	5680361	751	中部日本における火山体の巨大崩壊堆積物の特性に関する調査研究	信州大学教育学部教授	河内晋平
一般研究 (C)	5610335	234	東北日本の前期旧石器文化の技術構造に対する石材獲得環境の影響	東北福祉大学社福助教授	梶原 洋
一般研究 (C)	5640801	361	アウストラロピテクス類歯化石、上顎大臼歯の形態学的研究	東京大学理学部講師	諏訪 元
一般研究 (C)	5640802	361	古人骨のAMS放射性炭素年代測定に関する分析試料の少量化	お茶の水女子大助教授	松浦秀治
一般研究 (C)	5640805	361	南西諸島人骨格の人類学的再検討	札幌医科大学医学部教授	百々幸雄
一般研究 (C)	5835002	907	m t DNA塩基配列にもとづく埋葬人骨の近縁関係の推定	埼玉大学教養部教授	小池裕子
一般研究 (C)	5835003	907	和田峠及び周辺地域から産出する黒曜石の化学組成—黒曜石原産地遺跡調査の基礎として	東京学芸大学教育学部助手	二宮修治
一般研究 (C)	5835005	907	広域テフラの残留磁化測定による磁気因の作成と地磁気永年変化についての	福井大学教育学部教授	中島正志
一般研究 (C)	5835006	907	加速器C-14年代測定法による古文化財の正確な年代決定に関する基礎研	名古屋大学助教授	中村俊夫
一般研究 (C)	5835007	907	プラント・オパール分析による焼畑址の実証的研究	宮崎大学農学部教授	藤原宏志
一般研究 (C)	5835009	907	アミノ酸ラセミ化年代測定における分析精度の向上と迅速化に対する基礎的	大阪府立大学工学部助手	安部 巖
一般研究 (C)	5835010	907	染織文化財の保存及び製作年代判定方法の明確化	共立女子大学家政教授	河村満ち子
一般研究 (C)	5835011	907	縄文土器に残留する有機物の化学分析	国際基督教大学教養助教授	D. Loeliger
一般研究 (C)	5835013	907	遺跡出土イルカ骨の計測値と非計測値的形質による個別別分析	金沢医科大学医学部助教授	平口哲夫
一般研究 (C)	5835014	907	西日本における考古地磁気編年の検討	大谷女子大学文学部教授	中村 浩
一般研究 (C)	5835015	907	縄文時代の堅果食糧、自然植生、植物相の地域的差異	流通科学大学商学部助教授	南木睦彦
一般研究 (C)	5835024	907	年輪年代法による弥生・古墳時代の暦年代の解明	奈良国立文化財研究員	光谷拓実
一般研究 (C)	5835025	907	放射性炭素の測定によるサハリン及び極東先史文化の年代学的研究	北海道開拓記念館研究員	野村 崇
奨励研究 (A)	5854033	332	氷床コア水の含有空気量解析による氷床変動の復元に関する基礎研究	北見工業大学工学部助手	亀田貴雄
奨励研究 (A)	5740328	335	東アジア新生代後期の長鼻類の系統発生とその古生態	姫路工業大学助手	三枝春生
奨励研究 (A)	5740337	337	第四紀気候変動が湖の天然の栄養状態に及ぼした影響について—琵琶湖とバイカル湖のポーリング・コア試料の解析から	東京大学理学部助手	豊田和弘
奨励研究 (A)	5780347	751	火山灰層序学による東北日本弧南部火山の噴火史解明とそれに基づく噴火の将来予測	東京都立大学理学部助手	鈴木毅彦
奨励研究 (A)	5780386	801	泥炭層解析に基づく湿原植生の動態に関する研究	岩手大学人社助教授	竹原明秀
奨励研究 (A)	5780390	801	堆積物の生物地球化学的解析に基づく日本海沿岸低地の完新世古環境変遷に関する研究	姫路工業大学・助手	佐藤裕司
奨励研究 (A)	5916001	251	榛名火山噴出物教材化と教育実践	群馬県群馬郡榛名一小教員	清水秀夫
奨励研究 (A)	5916002	251	甲府盆地南縁曾根丘陵の形成過程—火山灰層序を中心として—	山梨県塩山市大藤小教員	内藤範治
奨励研究 (A)	5916007	251	珪藻遺骸群集からみた完新世の富山湾沿岸平野部の水域環境について	富山県高岡市高陵中教員	邑本順亮
奨励研究 (A)	5916011	251	太陽活動が地球環境へ及ぼす影響についての研究	大分県大分市種田西中教員	柏木周二
奨励研究 (A)	5916015	251	第四紀更新世末、北上川上流域に形成された堰止め湖の復元と、その教材化	岩手県立盛岡第一高教員	杉山了三
奨励研究 (A)	5916017	251	上総・下総層群の火山灰層中に含まれる火山ガラス、斜方輝石と角閃石の屈折率の測定	千葉県富里高教員	斉藤尚人
奨励研究 (A)	5916018	251	養老川河床に分布する上総層群梅が瀬層の古地磁気学的研究	千葉県立佐原高 (定時制)	曾田信行
奨励研究 (A)	5916023	251	始良Tn火山灰層から推定される紀伊半島の浸食量と隆起量	和歌山県大成高教員	中屋志津男
奨励研究 (A)	5916024	251	福岡県北部に分布する芦屋層群の層序と貝化石群集による堆積環境の研究	広島観音高教員	船津 宏
奨励研究 (A)	5710237	234	瀬戸内における縄文貝塚の研究	愛媛大学法文学部助教授	宮本一夫
奨励研究 (A)	5710240	234	日本列島における後期旧石器時代の社会構造の研究—地域性の抽出とその成立要因の究明—	早稲田大学助手	亀田直美
奨励研究 (A)	5710241	234	考古学に有用な魚類遺存体の骨格図鑑の作成	いわき短期大学講師	北澤京美

## ■名簿の作成について

「会員名簿」を作成いたしますので、住所・所属等に変更のあった方は下記用紙に氏名、会員番号および変更点の箇所にご記入の上、本年6月20日までに（必着）下記宛郵送して下さい。

送付先：〒113 東京都文京区本駒込5-16-9  
 （財）日本学会事務センター内  
 日本第四紀学会 会員名簿係

-----き り と り-----

会員番号	026 - -		
ローマ字		生年月日	
氏名	男女	送付先	(該当の箇所に○) 所属先 自宅
専門分野	(該当の箇所に○・専門分野は一人1部門に限ります) 1.地質学 2.地理学 3.古生物学 4.動物学 5.植物学 6.土壌学 7.人類学 8.考古学 9.地球物理学 10.地球化学 11.工学		
現住所	〒	TEL	
		FAX	
所属先	名称	職名	
	所在地	〒	
		TEL	
		FAX	

### ■「第四紀通信」編集事務局から

日本第四紀学会の会報「第四紀通信QRNewsletter」Vol.2, No.3をお届けいたします。1月の評議員会で本会報が年6回発行となることが承認されました。従いまして、No.1は1月発刊、No.2は3月発刊、No.3は5月発刊、No.4は7月発刊、No.5は9月発刊、No.6は11月発刊と隔月発行になります。各号の締め切りは偶数月の15日といたします。今後も積極的に第四紀関連情報をお送りいただきますようお願いいたします。

〒810 福岡市中央区六本松4-2-1 九州大学大学院比較社会文化研究科 小池裕子  
 TEL & FAX 092-716-6892  
 電子メール：koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp  
 kashima@geo.kyushu-u.ac.jp  
 Nifty-serve I D : H G B 03015